

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**《現状》**

○学校…基礎的基本的事項の徹底を重視し、学力の向上を第一に進めている。特色ある教育活動として、伝統的文化活動を積極的に進めている。

○児童…明るく素直な児童が多く、地域・PTA行事にも意欲的に参加している。家庭と連携しながら、基礎学力及び、基本的生活習慣の定着、健康でたくましい体づくりを進めている。

○教師…日々、常に児童に寄り添い、指導改善に取り組んでいる。若手教員が多いため、校内OJTを充実させ、研究・研修を通して、指導力の向上を図っている。

○地域・保護者…創立117年の伝統が、地域の大きな力に支えられている。PTA活動も活発であり、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、各種ボランティアなど、学校教育への理解が厚く、協力的である。

《成果と課題》**○学力向上**

学力向上委員会を中心として、全校で基礎学力の向上を図ってきた。基礎的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導の充実とともに、日々の授業改善と教師の指導力の向上を図っている。また、小中連携による合同研究を進める中で、教科の系統性や指導法の共通理解を深めてきた。体験的活動の一層の充実を通して、基礎的事項を児童が主体的・対話的で深い学びに向かう学習を目指していきたい。

○健康な心身の育成

挨拶では、規律と温かな人間関係を重視し育ててきた。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には全校で共通理解を図りながら、組織的に対応するよう努めた。児童は全般的に明るく元気に生活している。些細なことからのトラブルもあり、思いやりの心をさらに育てていきたい。一方運動好きの児童が多く、一部の児童には年間を通した体育的活動や区のスポーツ大会での活躍もみられたが、全児童の体力テストの結果は低い。運動経験の二極化に対応した日常的な運動の場づくりが必要である。

○保護者・地域との連携

PTAや開かれた学校づくり協議会の行事も活発に行われ、教員も積極的に協力できた。学校便りの形式を変えて学校からの情報の発信を重視した。地域内の幼稚園・保育園とは、積極的な交流を行うことができた。引き続き学校評価を重視した連携体制の充実を推進する。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 学力向上**

目標実現に向けた取組みとして、「基礎的な内容の理解の徹底」「小中連携による合同研究」「教員の指導力向上」「組織体制の強化」をあげ、学力の向上を目指した。

重点的な取組事項－2 健康な心身の育成

目標実現に向けた取組みとして、「挨拶の励行」「いじめの根絶・不登校の解消」「たて割り班や委員会活動の充実」「体育的活動の充実」をあげ、健康な心身の育成を目指した。

重点的な取組事項－3 家庭・地域との連携

目標実現に向けた取組みとして、「保護者による年間2回の学校評価の実施」「PTA・地域行事等への教職員の参加」「幼稚園・保育園との連携」「創立117周年に関連した地域との連携」「各種ボランティアの拡充」をあげ、保護者や地域との連携を目指した。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

学力向上委員会を中心として、全校で基礎学力の向上を図ってきた。基礎的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導の充実がなお必要である。教科専門指導員による若手教員への指導や校内研究の充実を図ってきたが、日々の授業改善と教師の指導力の向上がさらに求められる。小中連携による合同研究を進める中で、児童・生徒の発達段階、教科の系統性や指導法の共通理解を深めてきた。国際理解や日本の伝統文化に触れる活動、地域学習等の一層の充実を通して、基礎的事項を活用し、児童が主体的に学んでいく学習を目指していきたい。

重点的な取組事項－2 健康な心身の育成

挨拶を重視して、あたたかな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、些細なことからのトラブルもあり、思いやりの心をさらに育てていきたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には全校で共通理解を図りながら、組織的に対応するよう努めた。運動好きの児童が多く、年間を通じた体育的活動や区のスポーツ大会での活躍も見られたが、体力テストの結果は、男子は向上したものの、女子は全般的に低い。運動経験の二極化や男女の遊びの形態の違い等に対応した日常的な運動の場づくりが必要である。特に体育授業の中に投てき活動を入れるなど投力向上を図っていく。

重点的な取組事項－3 家庭・地域との連携

P T Aや開かれた学校づくり協議会の行事も活発に行われ、教員も積極的に協力できた。学校便りの形式を変えて学校からの情報の発信を重視した。地域内の幼稚園・保育園とは、積極的な交流を行うことができた。引き続き学校評価を重視した連携体制の充実を推進する。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

年間を通じた本校の教育活動に対してのご理解・ご協力に深く感謝いたします。子供たちの安全で安定した学校生活は、家庭と地域の支えなくしては成り立ちません。P T A・開かれた学校づくり協議会・放課後子ども教室・図書ボランティア・学習支援ボランティア等、様々な保護者・地域の皆様のおかげで、子供たちは毎日健やかに学び、成長してきました。

今年度は創立117周年の年として、運動会等の学校行事においても、家庭・地域への発信を行ってきました。また子供たちは、学年に応じた形で、学校のこと、地域のことをより深く知るための学習に取り組むとともに、展覧会や児童集会等を通じて豊かな表現力の向上を図ってまいりました。

そうした子供たちのありのままの姿を、学校行事や学校公開にてご覧いただき、学校通信やホームページ等によってお知らせしてきました。次年度入学予定者の学校選択において、4割を超える学区外からの希望者を得ることができたのも、その成果の一つと思われまます。

また、子供たちが学校生活のルールを意識し、決まりを守ることの大切さを学んでいくためには、家庭や地域のご協力がどうしても必要です。たとえば「早く学校へ行きたい」という子供の気持ちを大切にしながらも、通学路や登校時の安全確保の視点から登校時刻の遵守を引き続き呼びかけさせていただきました。家庭・地域のご理解とご協力に改めて感謝いたします。

今後も保護者・地域の皆様から愛され、誇りとされる学校づくりをさらに目指して努力してまいります。引き続きご支援をお願いいたします。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全校で、基礎的・基本的内容の定着に向けた授業改善と、学力向上に関する取組が計画的になされていること。	区学力調査 通過率国語80%、算数80%	・4月実施調査では、通過率 国語82.2%、算数79.2%。	・次年度4月の学力調査に向けて、本校児童が苦手とする内容の克服を図る。個への対応、全校的な学力向上への取組をさらに重点化していく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎的な内容の理解の徹底	区学力調査 年度末の目標 通過率 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導の徹底 基礎基本の時間「けやき教室」年間30回・学習支援ボランティアの活用 ・パワーアップタイムの充実 国語・算数・読書(週3回20分間) ・放課後補習教室の充実 個別指導による補充学習(週1～2回) ・そだち指導員制度の効果的実施 (学力ポートフォリオの活用) ・夏季休業中の補充学習(10日間) 	基礎的・基本的な内容の定着を重視した授業改善を進めた。また、パワーアップタイムや放課後補習教室のさらなる充実に努めてきた。1月に実施した再調査では、全校の目標値通過率平均が、 %となり、成果が見えてきているが、達成基準にはやや届かなかった。指導を継続して、次年度の調査に結果を出したい。	授業規律を重視し、指導法や教材の工夫により、児童の学習意欲を引き出していく。SP表の分析やポートフォリオの活用を通して、さらに個に応じた指導を充実させていく。学習ボランティアの協力を得て、けやき教室の習熟度別指導の徹底を図る。	○
小中連携による合同研究	小2校・中1校による合同研究会を6回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校の合同学習指導案作成研究会(9分科会別・3回以上)。 ・合同研究授業(9分科会別・3回)。 ・相互公開授業・全体協議会(2回以上) 	足立区立湊江中学校・湊江第一小学校との合同研究会では、教科別に8分科会に分かれて研究を進めた。中学校1回、小学校各1回、合計3回の研究授業を行い、事前の合同指導案検討会をそれぞれ2回実施した。	小中合同の指導案検討に、各教科毎の取組の深まりが見られた。さらに児童・生徒の生活指導上の相互理解も加えながら、9年間を見通した指導の改善を図っていく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教員の指導力向上	授業研究・研修会を15回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘しての校内研究授業(6回) 年次研修への全員参画(1～4年次) 若手研修会(経験6年目以下) 区小研への参加 	講師を招聘して、各学年・専科による校内研究授業を8回実施した。教科指導専門員には単元を通して助言を受けた。研究授業の事前授業にも多くの教員が自主的に参加した。	全教員が授業の基本について学ぶことができた。さらに様々な教科の授業研究を通して、より指導力の向上を図っている。	◎
体験的活動の充実	各学年2回以上、学校全体3回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育、キャリア教育・オリパラの推進 外部人材の活用・外部機関との連携 伝統的文化に触れる活動(落語・将棋・百人一首・俳句等) 	オリンピック・パラリンピック関連の活動や、伝統文化教育を推進し、落語・将棋・百人一首・俳句等、20回以上の講座を開催した。	オリパラ教育・伝統文化教育推進は来年度も継続する。PTAや開かれた学校づくり協議会の協力を得ながら、特色ある教育活動として位置づけ継続していきたい。	○

重点的な取組事項－2 健康な心身の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を認め、尊重する態度、あたたかな人間関係が、各学級を基盤に定着していること。年間を通じた体力向上へ向けての取組が積極的になされていること。	学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価90%以上。都体力調査、全学年男女都平均以上か同程度。	「学校へ楽しく通っている」肯定的回答96% 「思いやりの心が育っている」肯定的回答87% 都体力調査、都平均以上か同程度の学年が、6学年中男子5学年、女子1学年。	全体的に児童は明るく生活している。思いやりの心を育てる根気強い指導をこんごも継続する。体力面でも、運動経験の二極化が見られ、基礎体力の全校的な底上げが課題となっている。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 登校時や来校者への挨拶の徹底。 家庭・地域への啓発と行動連携 	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価80%	挨拶とともに、返事や言葉遣いを年間を通じた重点的な指導事項としていく。	△
いじめの根絶・不登校の解消	いじめの解消100% 不登校の解消100%	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化 スクールカウンセラー・関連機関との連携 道徳授業、学級活動の充実 	教職員による生活指導上の情報交換を週に1回行い、対応の共通理解を図った。いじめ行為の根絶、不登校傾向の解消に完全には至らなかったが、早期発見、早期解決することができた。	担任が抱え込むことのないよう、SCやSW、外部関連機関との連携を強め、校内委員会を核とした全校体制をより活性化させてい	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
				く。	
体育的活動の充実	業間における体力向上への全校的取組、年間4回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄・短縄・マラソン ・旬月間・投てき ・校庭遊びの奨励 	長縄・短縄と持久走の体力向上週間を、計4回実施した。特に、長縄は、各学級が競って取り組み、2学級が区の長縄チャレンジ表彰を受けた。	校庭遊びをより奨励し、体育的活動との関連を図りながら、各運動の日常化を進めていく。	○

重点的な取組事項－3 家庭・地域との連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識がもたれていること。	学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価85%以上	学校評価アンケート「学校へ相談」の肯定的評価84%「地域行事に参加」肯定的回答48%	保護者への情報の発信が重要である。ホームページ、学校メール等の活用をさらに強化する。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者による年間2回の学校評価の実施	2回の学校評価アンケートの平均回収率70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み前・冬休み前の年2回アンケートの実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善 	学校評価アンケート回収率 前期70% 後期73.4% 平均71.7%	マークシート方式が効果的だった。結果の生かし方を検討する。	○
P T A ・ 地域行事等への教職員の参加・協力	全教職員が年間2回以上いずれかの行事に参加	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A まつり、地域行事、開かれた学校づくり協議会活動等への計画的な参加 	P T A まつり、スポーツ、地区対、町会等の行事に、教職員のほぼ全員が2回以上参加した。	教職員の意識をより高めるとともに、無理なく参加できる体制づくりをする。	○
幼稚園・保育園との連携	1幼稚園・1保育園との連携活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園への全員参観、交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施 	夏季休業中の全員参観、運動会・音楽会の練習見学、交流活動、教員の交流研修等を予定どおり実施できた。	連携保育園が民託化されたが、引き続き連携を維持できた。継続していきたい。	○
各種ボランティアの拡充	図書ボランティア・学習支援ボランティア・将棋ボランティアの増員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り・HP・保護者会等での発信 ・地域への依頼 	各ボランティアとも大幅な増員には至らなかったが、活動内容は定着し、充実して行われた。学習ボランティアは通常授業の支援をいただいた。	活動の実際の様子を、学校公開等を通して、より広く発信していく。	○

3. 学校活動全般について

○学力の向上

児童の基礎的・基本的な学力の定着を目指してきた。その結果、区学力調査2年～4年は目標値を超えた児童が8割に達した。一方5、6年は7割にとどまった。発達段階に応じて身に付けたい学力をしっかりと習得し、活用していくことができるよう、引き続ききめ細やかで成長を実感できる真の『学舎（まなびや）』としていく。

○豊かな心とあたたかな人間関係の育成

人間関係の基本である挨拶について、年間を通して指導してきた。またいじめについては、「いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止、早期解決に努めてきた。調査結果から協力や思いやりの心が、学校全体として育ってきたが、挨拶の声もまだ小さく、日常的な児童同士のトラブルや乱暴な言葉遣い、廊下を走り回る姿などもまだ見られる。学級を基盤とした規律の確立、学校生活のルールの徹底、全校児童を常に全教職員で見守っていく体制をさらに継続していく。

○特色ある教育活動の実施

日本の伝統的文化に触れる機会を積極的に設けた。将棋教室（水曜教室・サマー教室）、百人一首教室、落語教室、俳句（一茶まつり）などを、年間を通して実施した。中でも、一茶まつりでは、個人・団体共に成果を示し、将棋団体3位受賞、百人一首でも、区の大会にて好成績を得た。校内での位置づけをより明確にしていく。

○特別支援教育の推進

特別支援学級設置校として、通常の学級との相互交流を活発に行った。また都と区の2名のスクールカウンセラー、区スクールソーシャルワーカーや関連機関と連携しながら、通常学級内における特別な配慮を要する児童への支援を行った。また、特別支援教室の有効活用を計画的に進めた。

○学校行事で伸びる力

運動会や学芸会、高学年の宿泊学習等の大きな行事に向けて、児童に明確なめあてをもたせて取り組ませた。その中で、根気強く目標に向かっていく力や集団としての規律、協力の意識などが培われた。特に学芸会へ向けての日常からの学習指導や集会活動の改善が、具体的な成果として表われた。